

「改訂新版 気象予報士かんたん合格テキスト<学科専門知識編>」 更新原稿 改訂新版 第1刷

(2015年8月17日更新)

以下の原稿は、書籍の出版後に変更となった情報の更新原稿です。
大変お手数ですが、文章の差し替えて学習をお願いいたします。

p.265 CFL条件

本文 上から1~21行目を以下の原稿に差し替えてください。

一般論として、数値予報の予測計算で行う積分計算のタイムステップの上限値は、ある格子から隣の格子へ移動する時間より十分に小さくする必要があります。このためタイムステップは平成27年5月現在では次のようになっています。

あまり深い知識は問われませんので、格子と格子の間隔が短くなるほど、時間ステップは短くする必要があると考えてください。

全球モデル……………400秒

メソモデル……………20秒

局地モデル……………8秒

格子間隔 m / 積分間隔 s $>$ 1秒当たりの移動速度 m

(この不等式が成立することが望ましい)

また、解釈として計算のタイムステップの間隔を短くすることは、計算容量上は格子間隔を小さくしていることと同じになります。専門的な根拠においては、本書では省略しますが、このような制約から水平格子間隔を半分にすると、格子の数は4倍になり、予報のタイムステップも半減する制約から、元の予報期間を予報するのであれば計算量が2倍となって、トータルでは8倍の計算量が必要ということになります。

p.324 府県週間天気予報

本文 上から7~9行目を以下の原稿に差し替えてください。

- A…確度が高い予報 (明日の予報並に高い)
- B…確度がやや高い予報 (適中率が4日先の予報と同程度)
- C…確度がやや低い予報 (適中率が信頼度Bよりも低い)

p.302 下から 5 行目

本書の記述	「竜巻注意情報」が都道府県単位で発表され、
更新内容	「竜巻注意情報」が ほぼ都府県毎 で発表され、

p.304 下から 3 行目

本書の記述	「竜巻注意情報」が都道府県単位で
更新内容	「竜巻注意情報」が ほぼ都府県毎（北海道・離島は地方毎） で